

海外研修報告

カナダの体育系学部を訪問して

和田 智 仁
(スポーツ情報センター)

はじめに

平成13年度海外派遣研究者として、平成14年3月15日から6日間の行程でカナダ国オンタリオ州のウィルフリッド・ローリエ大学（以下、WLU）とウエスタンオンタリオ大学（以下、UWO）を訪問する機会を得た。訪問の目的は体育系学部における情報通信技術の利用に関する調査を行い、また本学における取り組みを紹介し意見の交換を行うことであった。本稿では今回のカナダ訪問を通じて印象に残った点を中心に報告する。

研究設備について

研究設備については、WLUではDept. of Kinesiology & Physical Education, UWOではCanadian Centre for Activity and Agingを中心に見学した。両方の研究設備とも情報通信技術という観点からは特に最新のものを導入しているようではなかった。しかし、最新の設備でなくともそれぞれの分野において工夫をこらして研究・教育活動に用いている様子をうかがうことができた。

図1は、WLUのS. D. Perry助教授がバイオメカニクスの授業のために作成したソフトウェアの画面である。このソフトウェアでは、人体の重心などをマウスによって時系列的にポイントすることで、最終的にそれらの点の移動速度や加速度などをグラフとして表示できる。Perry氏は同様のプログラムを他にも作成し、授業などに利用しているとのことであった。これらのプログラムは単純なものではあるが、新しい概念を導入する際に受講者の理解を助けるのに最適であろう。このような取り組みは参考にしたいと思った。

UWOにおいても測定装置など多くのものを研究者自身が開発し、利用している様子がうかがえた。なかでも、外壁などほとんど手作りの低酸素室には驚いた（図2）。

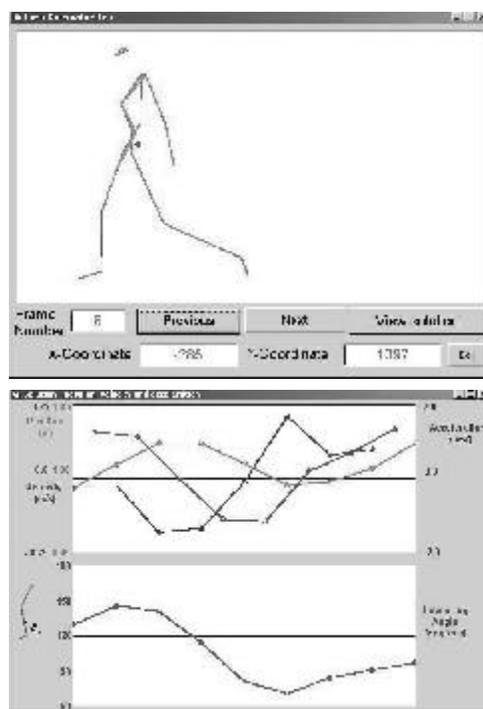


図1 Perry氏が開発したプログラム画面



図2 実験用低酸素室。測定用ソフトウェアもExcelのマクロなどを利用した簡素なものであった。

研究設備の見学や意見の交換を通じて、スポーツ情報センターをはじめとする本学の所有設備が大変恵まれたものであることを改めて認識し、またそれらをより一層有効に活用していかなければならないと痛感した。

全学的な情報化への取り組みについて

WLU では、食堂の脇に多くの PC が並べられていた (図 3)。また食堂近くの部屋には、本学の情報処理演習室のように多くの PC が並べられた部屋があった。これらは学生や大学関係者がいつでも PC とネットワークを利用できるように配置されたもので、訪問が土曜日であったにも関わらず部屋では多くの学生がこれらを使って作業を行っていた。なお、これらの PC は使用前に利用者の認証を行うようになっており、部外者は使用することはできない。

本学を含む多くの大学では、学生や教職員に対する情報を Web や電子メールを通じて提供する場面が増えてきている。また、課題の作成や教官との連絡など大学生活には PC の利用が必須である。食堂のように多くの人が利用する場所に PC を設置するというサービスは利用者にとって大変便利なものであろう。ただし、このように開放的な場所に PC を設置する場合には、WLU のようなセキュリティの仕掛は必須となるだろう。ちなみに、最近では本学でも情報コンセントのセキュリティ対策に取り組みつつある。



図 3 食堂に設置された PC . 食堂も全体的に shopping mall の food court のような明るい雰囲気だった .

WLU では “Information Technology Services” (ITS) という部署があった (図 4)。この部署は、ネットワークや WWW ・ メール等の各種サーバ、学内共同利用端末の運用 ・ 管理をはじめ、学生や教職員に対する技術相談や技術指導など、学内の



図 4 ITS のオフィス前にて

あらゆる情報技術に関する支援を総合的に行っているとのことであった。UWO でも同様の組織で同様のサービスが提供されているようである。

学内の一部の研究室や部署で部分的にコンピュータやネットワークが利用されていた十数年前と異なり、現在では学内 LAN や WWW ・ 電子メールシステム、さらに共同利用 PC などが大学を支える重要なインフラストラクチャとなっている。また、学生、教職員共に、コンピュータを利用する機会は確実に増加しており、その利用上で技術的な問題に直面することは少なくない。日本の国立大学の場合、全学的な情報基盤となるシステムの運営や管理を情報処理センターで行っていることが多いが (本学ではスポーツ情報センターが行っている)、ITS のようにエンドユーザである学生や教職員の個人的な活動までをサポートできるほどの体制や技術力は整えられていない場合がほとんどであろう。また、それにも関わらず、学内において発生する様々な情報技術に関する問題はセンターに持ち込まれる場合も多い。大学全体の情報化を真に推進するには、まず ITS のような組織や体制を実現する必要があるだろう。ITS のようなユーザーサービスをはじめ、e-Learning (ネットワークを利用した教育) への取り組みなど、日本の大学、特に国立大学における全学的な IT 戦略は、北米の大学のそれに比べかなり出遅れているのではないかと感じた。

カナダのインターネット接続事情

番外ではあるが、カナダのインターネット接続事情についても報告する。今回の旅行で宿泊した2つのホテルでは、電話機のモデムポートを使ったダイヤルアップ接続に加え、イーサネットによるインターネット接続（IP 接続）を利用可能であった（図5）。利用料金は1日で約10カナダドル。接続時の通信帯域は実測で1 Mbps 程度あり、ダイヤルアップ接続に比べ非常に快適に利用できた。また、PCからのプリントアウトもネットワークを通じて可能であった（モノクロ1枚\$1+部屋までの配達\$1）。IP接続ならではのサービスであろう。なお、今回宿泊したホテルでは、ネットワークカードとケーブルについて貸出しを行っていなかった。一般にIP接続を行う場合にはこれらを持参する必要があると思われる。



図5 室内に設置された情報コンセントと説明文。説明文には「接続後ブラウザを起動し、指示に従うこと」と書いてあるだけだった。

日本においても同様のサービスは普及しつつあり、さらに駅構内や飲食店内等での無線によるIP接続サービスも今後普及していくと予想される。補足ではあるが、このような公の場所からIP接続を利用する場合は、本学の学内LANから接続する場合と異なり、ファイアウォールなどによって自分のPCが保護されていないという点に注意する必要がある。無設定のPCは驚くほど無防備である場合が多いためである。

また、トロントの空港ではコインかクレジットカードで利用できるWeb端末を見かけた（図6）。



図6 インターネット端末と表示画面。本学のページも表示できた。サーバ情報を設定すればSMTPやPOPによるメールの送受信も可能（ただし、日本語入力は無理）。

以前は、海外の同様の端末では日本語がうまく表示されない場合も多かったが、この端末では日本語のページも正常に表示できた。日本にも同様の端末があれば便利と思うのだが、あまり見かけない。インターネットに接続可能な携帯電話が普及しているせいかもしれない。

おわりに

短い訪問ではあったが、いろいろと学ぶところや発見も多く、有意義な訪問であった。特にITSを含め北米の大学のIT化については継続して調査し、本学に還元していきたいと考えている。今回の訪問の機会を与えてくださった学長並びに関係者各位、両大学の先生方をご紹介いただいた国際交流委員の先生方に感謝いたします。

参考 URL

ウィルフリッドローリエ大学 <http://www.wlu.ca/>
ウエスタンオンタリオ大学 <http://www.uwo.ca/>